

①人口縮小と空き地・空き家問題

シュリンクシティ研究会 (CPIJ 研究交流分科会) [第II会場/共通講義棟C EL16]

人口縮小が進むことで都市計画的に課題となるものとして「空き地・空き家問題」がある。その実態についての事例報告と、それが具体的にどのような都市問題・社会問題として顕在化しているかを明らかにする。そして、この問題にどのように対処していけばいいのかを、海外を含めた幾つかの先事例を踏まえ、議論をし、その展望を探ることを目的とする。

《登壇予定者》馬場弘樹(京都大学東南アジア地域研究研究所)、藤井康幸(静岡文化芸術大学)、青木嵩(大阪大学)、米村博明((公社)奈良まちづくりセンター)(モデレーター:服部圭郎(龍谷大学))

②都市におけるグリーンインフラの役割と社会実装

グリーンインフラの計画的展開と社会実装研究会 (CPIJ 研究交流分科会) [第III会場/共通講義棟C EL26]

研究交流分科会「グリーンインフラの計画的展開と社会実装研究会」では、2019年度からグリーンインフラの定義、機能、社会実装に向けた課題などを議論してきた。本WSではこれまでの議論を踏まえ、都市における役割と社会実装について話題提供し、議論したい。計画的な視点から要素技術としてのグリーンインフラまでを網羅し、日本の社会、都市の課題にグリーンインフラがどのように貢献しうるのか、そしてその実装にはどのような課題があるのか検討する。

《登壇予定者》一ノ瀬友博、植田直樹、三輪隆、福岡孝則、井本郁子、花房昌哉

③2050年の社会像・都市像と都市・地域計画領域におけるアプローチ

2050年都市ビジョン研究会 (CPIJ 研究交流分科会) [第IV会場/共通講義棟C EL35]

人口減少・超高齢社会、大規模災害の頻発、今なお続く新型コロナ禍など、わが国を取り巻く社会・経済情勢が以前にも増して変化する中、都市づくりも新たな時代への対応が求められている。今年6月、当研究会では、2050年の望ましい社会像と都市像、その将来像を実現するために求められる都市・地域計画領域での対応をとりまとめ、提言書Ver1.0として公表した。本WSでは、今後3か年かけて提言書のバージョンアップしていく初年度の取組として、提言書に基づく話題提供を行うとともに、双方向型・発散型の意見交換を行う。

《登壇予定者》松谷春敏(株|HI)、松下佳広(株国際開発コンサルタント)、山下陽子(株エックス都市研究所)、深谷信介(ノートルダム清心女子大学)、村上早紀子(福島大学)、森本瑛士(信州大学)

④浸水想定区域の都市的土地利用をどのように考えるか

木内望(建築研究所) [第VII会場/共通講義棟C EL45]

地球規模での気候変動影響や水害の多発・激甚化、流域治水への治水政策の転換等を受けて、都市計画・まちづくりにおいて水害対策との連携が求められているが、国内都市の置かれた気象・地形的条件や歴史的経緯などから、水害リスクフリーな都市づくりは必ずしも現実的ではないと思われる。立地適正化計画等の策定や開発規制制度の適用検討と併せて、当該地域の今後の土地利用の想定とリスク低減策を考える必要がある。本ワークショップでは、今大会における発表論文等を題材に、その著者・WS参加者により浸水想定区域内の土地利用のあり方などを議論する。

《登壇予定者》中野卓(建築研究所)、小川宏樹(徳島大学)、馬場美智子(兵庫県立大学)、中井検裕(東京工業大学)、中村晋一郎(名古屋大学)、加藤孝明(東京大学)

⑤持続可能な都市づくりに貢献する地理総合 -2022年度地理総合必修化に向けた都市計画学会の取り組み-

日本都市計画学会企画調査委員会高校教育支援WG [第VIII会場/共通講義棟C EL24]

2022年度から新学習指導要領に基づき高校で「地理総合」が必修となる。それに向けて2020年度より日本都市計画学会では高校教育支援WGを設置し、さらに教材提供方針会議、大学連携チーム、支部チーム、仕事紹介チームを設置し、議論を進めている。そこでこれまでWGにて議論してきた内容について紹介すると同時に、高校における地理総合への支援のあり方、都市計画の専門家の果たす役割、都市計画学会として取り組む方向性、について意見交換したい。

《登壇予定者》野原卓、武田重昭、小松正明、他WG・教材提供会議メンバー、高校地理担当教諭

⑥関係人口を基盤にした移住進化モデルを考える

移住定住研究会 [第IX会場/共通講義棟C EL23]

地方創生の取組で移住・定住を推進する地方都市では、地域振興における「関係人口」の構築が重要視されています。「関係人口」の概念的な捉え方と「移住戦略」(移住進化モデル)について意見交換を20代年齢層を対象にオンライン参加型ワークショップにて行います。参加型ワークショップは、1部:ガイダンス、2部:参加者が移住進化モデルを検討・発案、3部:移住体験者(登壇者)を交えたディスカッションで発案された移住進化モデルを総括の3部構成です。【参加型ワークショップ対象者:20代・10名、メールにて要事前申込:naomasa.abiko@gmail.com 担当:安孫子】

《登壇予定者》移住定住研究会:安孫子尚正・佐々木祐二・兵頭蒼(リージョナルデザイン株)、木蔵紘己(鳥取大学)

⑦都市公園の新展開「イノベーティブ・パーク」を問う

イノベーティブ・パーク研究会 (CPIJ 研究交流分科会) [第X会場/共通講義棟C EL33]

近年、日本の津々浦々の都市公園において、共益と収益の最大化を目指し、公民連携で再整備する事例が増加している。この潮流は世界的に稀有であることから、「イノベーティブ・パーク」と称し、学会の分科会で議論を進めている。本ワークショップは、都市公園における官民連携を専門とする研究者、再整備から管理・運営までかかわる実践者により、世界と比較した日本の制度および事例の特徴と課題を論じ、世界に発信可能な知見をとりまとめることを目的とする。

《登壇予定者》坂井文(東京都市大学)、山崎嵩拓(神戸芸術工科大学)、宋俊煥(山口大学)、磯脇桃子(NPO birth)、山家渉(株式会社インザパーク)